

科目名	日本語の歴史	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	講義		
教員名	古江 尚美				
クラス名	日本語の歴史				

授業目的と到達目標	
日本語の歴史を学ぶことによって、我々が普段何気なく使っている日本語に対する理解を深め、より洗練された日本語を使いこなせるようになることが目標です。	
授業概要	
文字史・音韻史・文法史…と各分野別に日本語の歴史の変遷を追っていきます。 教科書には豊富な資料や詳しい年表がついているので、それらを参照しながら、PowerPoint に沿って授業を進めます。 毎回、その日の授業の理解度を測る出席テストを実施し、翌週返却、フィードバックします。 各分野が終わったら分野別小テストを実施します。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
毎回、出席テストを実施します。その日の授業を聞いていれば、簡単に解ける問題です。 翌週、採点したものを返却するので、できなかったところを再確認すること。 また、1つの分野が終わったら、分野別試験を実施します。暗記よりも理解重視なので、試験は全て(電子機器以外)持ち込み可です。資料など普段から整理しておくことが重要です。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
分野別試験	25
出席テスト	25
学年末試験	50

教科書			
教科書1	『新訂 国語史要説』		
出版社名	大日本図書	著者名	金田弘・宮腰賢
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	日本語の歴史:授業の進め方・時代区分・分野
2	日本語の文字資料・神代文字
3	文字史 1. 上代 1 漢字の伝来・利用
4	文字史 2. 上代 2 さまざまな文体
5	文字史 3. 上代 3 万葉集の用字
6	文字史 4. 中古 仮名の歴史
7	文字史 5. 総まとめ、文字史小テスト
8	文字史 6. 小テスト返却、文字史総括
9	音韻史 1. 上代の音節数 上代特殊仮名遣い
10	音韻史 2. 清音の音節数の変遷 中古以降
11	音韻史 3. 上代の音節結合上の特徴
12	音韻史 4. 中古の音韻 音便の発生
13	音韻史 5. 中世 長音の発生
14	音韻史 6. 近世以降
15	音韻史 7. 総まとめ、音韻史小テスト
16	音韻史 8. 小テスト返却、音韻史総括
17	文法史 1. 動詞の活用 1 上代
18	文法史 2. 動詞の活用 2 中古
19	文法史 3. 動詞の活用 3 中世
20	文法史 4. 形容詞の活用 1
21	文法史 5. 形容詞の活用 2
22	文法史 6. 形容詞の活用 3
23	文法史 7. 形容動詞の活用
24	文法史 8. 可能表現の変遷 1

25	文法史 9. 可能表現の変遷 2
26	敬語史 1. 上代
27	敬語史 2. 中古
28	敬語史 3 中世～現代、 総まとめ
29	まとめ・総復習・学年末試験
30	試験返却・解説

科目名	日本語の文法	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	講義		
教員名	古江 尚美				
クラス名	日本語の文法				

授業目的と到達目標	
日本語文法の基本概念を学び、母語について客観的に考える力を養成します。 いつも無意識に使っている日本語の理解を深めるとともに、 中高生や日本語を第2言語として学ぶ人たちに日本語を教えることができるようになることが最終目標です。	
授業概要	
高校までに習った学校文法を確認し、さらに非母語話者に対する日本語教育で用いられる日本語文法も並行して学ぶことによって、日本語の構造についての理解を深めていきます。問題を解きながら、日本語を客観的に捉える練習をします。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
講義を聞くだけでなく、各自問題を考え、解きながら日本語文法を身につけていきます。 間違えることを恐れず、積極的に授業に参加してください。 毎回、授業の最後に出席テストを実施します。授業で学んだことが理解できているか、自ら確認してください。 翌週、採点したものを返却するので、できなかったところを再確認すること。 また、4回小テストを実施します。暗記よりも理解重視なので、試験は全て(電子機器以外)持ち込み可です。資料など普段から整理し復習しておくことが重要です。小テストも返却して説明しますから、学年末の確認テ	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
学年末 確認テスト	50
小テスト	25
出席テスト	25

教科書			
教科書1	『国語教師が知っておきたい日本語文法』		
出版社名	くろしお出版	著者名	山田敏弘
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
他大学で日本語教育(留学生対象)に携わっています。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の進め方、文法とは何か、国文法(学校文法)と日本語文法
2	§ 1.品詞分類
3	基本文型
4	§ 2.用言 活用 1
5	§ 2.用言 活用 2
6	§ 1.2.復習 品詞・活用 小テスト
7	§ 3.文の組み立て 1
8	§ 3.分の組み立て 2
9	§ 4.助詞の分類、格助詞
10	§ 5.副助詞
11	§ 6.接続助詞 1
12	§ 6.接続助詞 2
13	§ 4.～6 復習 助詞小テスト
14	§ 7.連用修飾
15	§ 7.連体修飾
16	§ 3.7.文の組み立て、修飾語 復習 小テスト
17	§ 8.助動詞(1) 1
18	§ 8.助動詞(1) 2
19	§ 8.助動詞(1) 3
20	§ 8.助動詞(2) 1
21	§ 9.助動詞(2) 2
22	§ 9.助動詞(2) 3
23	§ 10.助動詞(3) 1

24	§ 10.助動詞(3)2
25	§ 8.9.10.助動詞 小テスト § 11.助動詞と似た働きの形式(1)
26	§ 12.助動詞と似た働きの形式(2)
27	§ 13.敬語
28	総まとめ、復習
29	総まとめ 学年末確認テスト
30	試験返却 説明 総括

科目名	レトリック論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	講義		
教員名	福井 慎二				
クラス名					

授業目的と到達目標	
文学作品を文体という点から捉えることに慣れ、文章に対する感覚を養い、ひいては創作に役立てられることを目的とする。レポートで奇抜な直喩や有名文学作品のパロディを作成し、レトリックを習得し文体に敏感になることを目標とする。自分だけの個性的な文体を作り、作家としての基礎作りに役立つ技術修得を目指す。また国語の教員に必要なレトリックの知識を習得する。	
授業概要	
日本近・現代文学を中心にした日本語の文体の歴史や、夏目漱石・芥川龍之介・太宰治などの作家の文体の個性をそのパロディやパステーションと比較することで捉える。前期は毎回レトリックを小テストで身につくようにし、宿題として課す提出課題で直喩・隠喩などを作成・描写の練習・視点の使い方を学ぶ。同様に日本語の文体の小テストも行う。後期はライトノベルの文体として呪文・戦闘描写の書き方や夢らしい書き方を取り上げる。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
直喩などの表現技法や雅文体などの区別を授業中の小テストで身に付け、間違い箇所を復習し、必ず宿題をやって、直喩・隠喩などを作成・描写や視点の使い方を練習し、日頃から表現技法や文体の特徴を気にしながら文章を読み書く訓練をすること。受講上の注意として小テスト・宿題をおろそかにしてはならない	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
前期・後期のレポート	64
提出課題(16回)	16
授業態度	20

教科書			
教科書1	授業中にプリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
ほぼ毎週前期に実施の小テストのため復習し、隔週で通年実施する提出課題作成に1時間程度必要。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1ガイダンス／文体とは何か／レトリック(1)直喩・隠喩　／レトリック作成課題1(直喩) 文体把握には表現技法から作品構造レベルまでの項目があり、表現技法として先ず直喩・隠喩を説明、練習問題を解き次回小テストを行なう。宿題としてレトリック作成課題1を指定期限までにUNIPAのクラスプロファイルの「課題提出」に提出する。
2	文体論の方法　その1(修辞学)／レトリック(2)諷喩・換喩／レトリック小テスト(1) 多様な文体把握の仕方の中から先ず修辞学を取り上げる。直喩・隠喩の小テストを行なう。諷喩・換喩の説明、練習問題を解く。宿題のレトリック作成課題1の学生の解答例を解説する。
3	文体論の方法　その2(文章心理学と計量文献学)／レトリック(3)婉曲語法・迂言法／レトリック小テスト(2)／レトリック作成課題2(隠喩1) 名文・悪文を追究する文章心理学や統計的・数学的処理をし警察の捜査にも利用される計量文献学を紹介し、その問題点を指摘する。婉曲語法・迂言法の説明、練習問題を解く。 【レトリック作成課題2　UNIPA「課題提出」に提出】
4	新聞記事とTVニュース原稿の文体／レトリック(4)撞着語法・列挙法・追加法・反復法／レトリック小テスト(3) 用途に応じた文体・書き方として新聞記事・TVのニュース原稿の文体の相違を見る。撞着語法・列挙法・追加法・反復法の説明をし、表現技法の小テストを行なう。宿題のレトリック作成課題2の学生の解答例を解説する。
5	小説の文体　その1(小説の虚構性と視点)／レトリック(5)対比・交差配語法・くびき語法／レトリック小テスト(4)／TVニュース原稿作成課題 小説の文体の特徴を虚構性・視点・心理描写に見る。対比・交差配語法・省略語法などを説明し、表現技法の小テストを行なう。 【TVニュース原稿作成課題の宿題　UNIPA「課題提出」に提出】
6	小説の文体　その2(小説の地の文とシナリオのト書き)／レトリック(6)誇張法・緩叙法／レトリック小テスト(5) 小説の地の文とシナリオのト書きを比較しながらその特徴を確認する。誇張法・緩叙法を説明し、表現技法の小テストを行なう。TVニュース原稿作成課題の宿題の学生の解答例を解説する。
7	小説の文体　その3(説明と描写)／レトリック小テスト(6)／レトリック作成課題3(隠喩2)

	小説の描写と説明の違いを説明する。レトリックの小テストを行なう。 【レトリック作成課題3(隠喩2)の宿題をUNIPA「課題提出」に提出】
8	小説の文体 その4(顔の描写)／レトリック小テスト(7) 小説の顔の描写を説明する。レトリックの小テストを行なう。宿題のレトリック作成課題3の学生の解答例を解説する。顔の描写の練習問題は12回目の授業で行なう。
9	小説の文体 その5(心理描写)／レトリック作成課題4(迂言法) 小説の心理描写の方法を具体例で確認する。 【レトリック作成課題4(迂言法)の宿題をUNIPA「課題提出」に提出】
10	日本語の文体 その1(漢文体)／〈描写〉練習課題1(情景) ジャンル・用途とは別に文法・句法・語彙の点で捉える日本語の文体の区別があり、まず漢文体を説明する。創作活動上の文体の使い分けに必要なになる。宿題のレトリック作成課題4の学生の解答例を解説する。 【〈描写〉練習課題1の宿題 UNIPA「課題提出」に提出】
11	日本語の文体 その2(和文体・俗文体)／日本語の文体の小テスト(1) 和文体(雅文体)・俗文体・を説明する。日本語の文体の小テストを行なう。宿題の〈描写〉練習課題1の学生の解答例を解説する。
12	日本語の文体 その3(雅俗折衷体・翻訳文体・言文一致体)／日本語の文体の小テスト(2)／〈描写〉練習課題2<顔> 雅俗折衷体(和漢混交文)・翻訳文体・言文一致体の説明をする。日本語の文体の小テストを行なう。 【〈描写〉練習課題2の宿題 UNIPA「課題提出」に提出】
13	芥川龍之介の文体 その1(総論)／日本語の文体の小テスト(3) 創作活動では個性的な自分の文体を作り出すことが重要となる。サンプルとして芥川を取り上げ、表現技法・語り口の特徴と作品の作り方の変化を見る。〈描写〉練習課題2の学生の解答例を解説する。
14	芥川龍之介の文体 その2(切支丹文献のパステーション)／日本語の文体の小テスト(4)／〈視点〉練習課題 『奉教人の死』など芥川の作品には戦国・江戸時代の切支丹文献のパステーションであり、その文体模倣ぶりを確かめる。 【〈視点〉練習課題の宿題を UNIPA「課題提出」に提出】
15	芥川龍之介の文体 その3(統合失調症患者患者の手記のパステーション)・人工言語 『河童』は精神病患者の発言の口述筆記の体裁を取り、『歯車』は病的変調が見られるので、統合失調症患者の発言・手記の文体的特徴を見てその模倣ぶりを確認する。〈視点〉練習課題の学生の解答例の解説をする。 【前期レポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】
16	ガイダンス・前期レポートについて／パロディの方法／レトリック作成課題5(尻取り文) UNIPAで返却した前期レポートの採点基準・解答例を公表して、後期の学習の動機づけをする。また後期の授業計画を解説する。パロディの仕方をパターンごとに原文とパロディ例を列挙して説明する。 【レトリック作成課題5(尻取り文)の宿題をUNIPA「課題提出」に提出】
17	太宰治の文体 その1(饒舌体) 太宰の文体の特徴は饒舌体にあり、表現技法・語り口の点から個性を確認する。宿題のレトリック作成課題5の学生の解答例を解説する。
18	太宰治の文体 その2(メタフィクション)／〈描写〉練習課題3<性格を示す顔> メタフィクションや物語を破壊する作品構造にも太宰の特徴があり、確認する。 【〈描写〉練習課題3の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】

19	太宰治の文体 その3(『走れメロス』のパロディ) 太宰はアフォリズムも個性的で芥川と比較する。『走れメロス』の文体を確認しパロディを紹介する。宿題の〈描写〉練習課題3の学生の解答例を解説する。
20	風景描写の方法／〈描写〉練習課題4〈風景〉 風景描写の仕方を具体例を通じて説明する。。 【〈描写〉練習課題4の宿題 UNIPA「課題提出」に提出】
21	昔話の翻案 芥川・太宰・倉橋由美子 昔話の翻案をしても芥川・太宰らしい発想と文体が一貫していることを確認する。宿題の〈描写〉練習課題4の学生の解答例を解説する。
22	服装描写の方法／〈描写〉練習課題5〈服装〉 服装描写の仕方を具体例を通じて説明する。 【〈描写〉練習課題5の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】
23	夏目漱石の文体 その1(言葉遊びの言語観) リアリズム中心の近代文学の中で漱石は言葉遊びをし装飾過剰で滑稽味のある独特な文体を持ち、表現技法・語り口の点から特徴を見る。宿題の〈描写〉練習課題5の学生の解答例を解説する。
24	会話の方法／〈会話〉練習課題 シナリオを例にしてセリフの書き方の解説をする。 【〈会話〉練習課題の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】
25	夏目漱石の文体 その2(『坊っちゃん』のパロディ・続編) 『坊っちゃん』のパロディや続編を紹介し、その文体模倣ぶりを確認する。宿題の〈会話〉練習課題の学生の解答例を解説する。
26	ライトノベルの文体 その1(呪文)／〈呪文〉練習問題 ライトノベルやファンタジーに必要な呪文として、真言・祝詞・陰陽道の呪文の文体の特徴と自作の仕方を説明する。西洋魔術は儀式魔術しか存在せず、占星術・錬金術・エノク魔術の知識がなければ自作出来ないが、実在の悪魔召喚の呪文などを取り上げて説明する。 【〈呪文〉練習課題の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】
27	夏目漱石の文体 その3(『明暗』) 『明暗』の粗筋・文体の特徴を見る。宿題の〈呪文〉練習課題の学生の解答例を解説する。
28	ライトノベルの文体 その2(戦闘描写①)／〈戦闘描写〉練習問題 ライトノベルやファンタジー・エンターテインメント系小説に必要な戦闘描写として、日本と西欧の剣術を取り上げる。日本の剣術のTVドラマや漫画・小説を比較して書き方を説明する。 【〈戦闘描写〉練習課題の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】
29	夏目漱石の文体 その4(『明暗』の続編・パスティーシュ)／夢の文体／夢の作成課題 『明暗』の完結編2つの粗筋・文体の特徴を見て、続編としてのストーリーや結末の妥当性と文体模倣ぶりを確認する。〈夢〉の文体の特徴を解説する。宿題の〈戦闘描写〉練習課題の学生の解答例を解説する。 【〈夢〉作成課題の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】
30	ライトノベルの文体 その3(戦闘描写②) ライトノベルやエンターテインメント系小説に必要な戦闘描写として、近接格闘技を取り上げる。宿題の〈夢〉作成課題の学生の解答例を解説する。 【後期レポート 提出期限 UNIPAの「課題提出」に提出】

科目名	詩歌の歴史	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	講義		
教員名	○太田 晋介、藪 葉子				
クラス名					

授業目的と到達目標
[前期] 近現代詩についての理解を深めること [後期] 韻文における日本語のしくみを考えていく。
授業概要
[前期] 対面授業 日本近代詩とフランスを中心とする西洋近代詩を比較することで、「詩」の構成要素と諸様相について広く学びながら、詩について考える力、即ち一般に鑑賞眼や批評能力と呼ばれる能力をきたえる。 [後期] 対面授業 上代から中世以前の和歌を取り上げる。特に和歌のことばを中心とした古代語について説明する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
[前期] 授業中に各種プリントを配布するので、しっかり精読すること。 学期中にやむをえない事由のものも含めて、欠席が「4」回以上ある場合、大幅な減点を行う。 授業開始時刻後、20 分までの教師に遅れての入室を「遅刻」とし、それ以降の入室を「欠席」とみなす。 遅刻「2」回を欠席「1」回とみなす。 [後期] 次の講義テーマを予告するので、それに関する予習をして授業に臨むこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
[前期]出席率、授業態度、各回の授業感想用紙やミニレポートの提出から導かれる平常点（現時点では予定していないが、それに加えて、最終レポートを課す可能性がある。その場合は7月初頭に周知する）	前期 50（最終レポートを課す場合は 平常点 30:最終レポート 20 の比率とする）
[後期]期末(筆記)試験	後期 30
[後期]平常点(小レポートの提出など)	後期 20

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 詩的近代の成立:「近代詩」と「現代詩」
2	詩の起源(1):模倣とポイエインーアリストテレス、ホラティウス、ホメロス
3	詩の起源(2):「うた」、タブーの侵犯としての詩:祖型としての讃美歌
4	近代的抒情の成立(1):『新体詩集』の意義:短歌、漢詩からの脱却
5	近代的抒情の成立(2):島崎藤村『若菜集』の抒情
6	近代的抒情の成立(3):西欧翻訳詩の影響—上田敏『海潮音』、堀口大祐『月下の一群』を主に
7	近代的抒情の成立(4):高村光太郎から萩原朔太郎へ
8	近代的抒情の成立(5):萩原朔太郎から現代詩へ
9	近代詩の主要問題系(1):叙事詩と物語 [※これ以降の授業については、受講者の関心にあわせて、順番や内容を差し替える場合がある]
10	近代詩の主要問題系(2):象徴主義とは何か?／ポー『構成の美学』
11	近代詩の主要問題系(3):比喩・イメージについて

12	近代詩の主要問題系(4):詩行、リズム、韻律、詩の「かたち」について
13	近代詩の主要問題系(5):「主体・わたくし性」の表出としての詩
14	近代詩の主要問題系(6):詩の線状性、叫び、声、オノマトペ
15	近代詩の主要問題系(7):詩と批評、「詩」について語る詩人たち／前期授業の総括
16	和歌の七五調のリズムについての解説。
17	『万葉集』歌人の歌について(1)
18	『万葉集』歌人の歌について(2)
19	『古今和歌集』歌人の歌について(1)
20	『古今和歌集』歌人の歌について(2)
21	佐竹本「三十六歌仙絵巻」について。
22	平安中期の女流歌人の歌について(1)
23	平安中期の女流歌人の歌について(2)
24	『古今和歌集』の歌風について。
25	『新古今和歌集』の歌風について。
26	和歌における見立てについて。
27	文学作品としての和歌集の編纂について。
28	和歌の散文作品への影響について。
29	散文作品に見える作中和歌について(1)
30	散文作品に見える作中和歌について(2)

科目名	文章表現の基礎	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 通年	形態	演習		
教員名	青山 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標
(前期)文芸学科 1 年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生生活の基盤を築くことを目標とする。 (後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。
授業概要
(前期)7 クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要となるアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。 (後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席厳禁。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。 パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点(前期):授業への積極的な参加等	20
提出物(前期:最終レポート含む)	30
平常点(後期:授業への積極的な参加等)	20
提出物(後期)	15
最終課題(後期)	15

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名 1	スタディ スキルズ ナビゲーション 2023

出版社名		著者名	大阪芸術大学／ベネッセ・キャリア
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス(大学における学び): 自己紹介・他己紹介
2	ノートテイキング
3	メールや手紙の書き方・出し方
4	図書館の利用(見学、体験)
5	Word や PowerPoint の使い方
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)
7	情報リテラシーについて
8	人に伝わる文章を書く①
9	人に伝わる文章を書く②
10	レポートの書き方①テーマを見つける
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる
12	レポートの書き方③口頭発表を行う
13	レポートの書き方④口頭発表を行う
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)
15	本の紹介②と前期のまとめ
16	後期授業のガイダンス: 第1課題の説明・原稿用紙の使い方
17	第1課題の合評と講評①
18	第1課題の合評と講評②
19	第1課題の合評と講評③
20	第1課題の合評と講評④
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する

22	第2課題の合評と講評①
23	第2課題の合評と講評②
24	第2課題の合評と講評③
25	第2課題の合評と講評④
26	第3課題の合評と講評①
27	第3課題の合評と講評②
28	第3課題の合評と講評③
29	第3課題の合評と講評④
30	一年間の授業の振り返り

科目名	文章表現の基礎	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 通年	形態	演習		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
(前期)文芸学科 1 年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生活の基盤を築くことを目標とする。 (後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。
授業概要
(前期)7 クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要となるアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。 (後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席厳禁。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。 パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点(前期):授業への積極的な参加等	20
提出物(前期:最終レポート含む)	30
平常点(後期:授業への積極的な参加等)	20
提出物(後期)	15
最終課題(後期)	15

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名 1	スタディ スキルズ ナビゲーション 2023

出版社名		著者名	大阪芸術大学／ベネッセ・キャリア
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス(大学における学び): 自己紹介・他己紹介
2	ノートテイキング
3	メールや手紙の書き方・出し方
4	図書館の利用(見学、体験)
5	Word や PowerPoint の使い方
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)
7	情報リテラシーについて
8	人に伝わる文章を書く①
9	人に伝わる文章を書く②
10	レポートの書き方①テーマを見つける
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる
12	レポートの書き方③口頭発表を行う
13	レポートの書き方④口頭発表を行う
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)
15	本の紹介②と前期のまとめ
16	後期授業のガイダンス: 第1課題の説明・原稿用紙の使い方
17	第1課題の合評と講評①
18	第1課題の合評と講評②
19	第1課題の合評と講評③
20	第1課題の合評と講評④
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する

22	第2課題の合評と講評①
23	第2課題の合評と講評②
24	第2課題の合評と講評③
25	第2課題の合評と講評④
26	第3課題の合評と講評①
27	第3課題の合評と講評②
28	第3課題の合評と講評③
29	第3課題の合評と講評④
30	一年間の授業の振り返り

科目名	文章表現の基礎	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 通年	形態	演習		
教員名	笹谷 純雄				
クラス名					

授業目的と到達目標	
(前期)文芸学科 1 年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生生活の基盤を築くことを目標とする。 (後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。	
授業概要	
(前期)7 クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要となるアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。 (後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席厳禁。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。 パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点(前期):授業への積極的な参加等	20
提出物(前期:最終レポート含む)	30
平常点(後期:授業への積極的な参加等)	20
提出物(後期)	15
最終課題(後期)	15

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名 1	スタディ スキルズ ナビゲーション 2021

出版社名		著者名	大阪芸術大学／ベネッセ・キャリア
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス(大学における学び): 自己紹介・他己紹介
2	ノートテイキング
3	メールや手紙の書き方・出し方
4	図書館の利用(見学、体験)
5	Word や PowerPoint の使い方
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)
7	情報リテラシーについて
8	人に伝わる文章を書く①
9	人に伝わる文章を書く②
10	レポートの書き方①テーマを見つける
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる
12	レポートの書き方③口頭発表を行う
13	レポートの書き方④口頭発表を行う
14	本の紹介①
15	本の紹介②と前期のまとめ
16	後期授業のガイダンス: 第1課題の説明・原稿用紙の使い方
17	第1課題の合評と講評①
18	第1課題の合評と講評②
19	第1課題の合評と講評③
20	第1課題の合評と講評④
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する

22	第2課題の合評と講評①
23	第2課題の合評と講評②
24	第2課題の合評と講評③
25	第2課題の合評と講評④
26	第3課題の合評と講評①
27	第3課題の合評と講評②
28	第3課題の合評と講評③
29	第3課題の合評と講評④
30	一年間の授業の振り返り

科目名	文章表現の基礎	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 通年	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					

授業目的と到達目標
(前期)文芸学科 1 年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生生活の基盤を築くことを目標とする。 (後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。
授業概要
(前期)7 クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要となるアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。 (後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席厳禁。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。 パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点(前期):授業への積極的な参加等	20
提出物(前期:最終レポート含む)	30
平常点(後期):授業への積極的な参加等)	20
提出物(後期)	15
最終課題(後期)	15

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名 1	「スタディ スキルズ ナビゲーション」

出版社名		著者名	大阪芸術大学／ベネッセ・キャリア
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス(大学における学び): 自己紹介・他己紹介
2	ノートテイキング
3	メールや手紙の書き方・出し方
4	図書館の利用(見学、体験)
5	Word や PowerPoint の使い方
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)
7	情報リテラシーについて
8	人に伝わる文章を書く①
9	人に伝わる文章を書く②
10	レポートの書き方①テーマを見つける
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる
12	レポートの書き方③口頭発表を行う
13	レポートの書き方④口頭発表を行う
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)
15	本の紹介②と前期のまとめ
16	後期授業のガイダンス: 第1課題の説明・原稿用紙の使い方
17	第1課題の合評と講評①
18	第1課題の合評と講評②
19	第1課題の合評と講評③
20	第1課題の合評と講評④
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する

22	第2課題の合評と講評①
23	第2課題の合評と講評②
24	第2課題の合評と講評③
25	第2課題の合評と講評④
26	第3課題の合評と講評①
27	第3課題の合評と講評②
28	第3課題の合評と講評③
29	第3課題の合評と講評④
30	一年間の授業の振り返り

科目名	文章表現の基礎	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 通年	形態	演習		
教員名	小川 光生				
クラス名					

授業目的と到達目標	
(前期)文芸学科 1 年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生生活の基盤を築くことを目標とする。 (後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。	
授業概要	
対面授業 (前期)7 クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要となるアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。 (後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席は避けて欲しい。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。 パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点(前期):授業への積極的な参加等	20
提出物(前期:最終レポート含む)	30
平常点(後期:授業への積極的な参加等)	20
提出物(後期)	15
最終課題(後期)	15

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	スタディ スキルズ ナビゲーション 2023		
出版社名		著者名	大阪芸術大学／ベネッセ ーキャリア
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス(大学における学び): 自己紹介・他己紹介
2	ノートテイキング
3	メールや手紙の書き方・出し方
4	図書館の利用(見学、体験)
5	Word や PowerPoint の使い方
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)
7	情報リテラシーについて
8	人に伝わる文章を書く①
9	人に伝わる文章を書く②
10	レポートの書き方①テーマを見つける
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる
12	レポートの書き方③口頭発表を行う
13	レポートの書き方④口頭発表を行う
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)
15	本の紹介②と前期のまとめ
16	後期授業のガイダンス: 第1課題の説明・原稿用紙の使い方
17	第1課題の合評と講評①
18	第1課題の合評と講評②
19	第1課題の合評と講評③
20	第1課題の合評と講評④

21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する
22	第2課題の合評と講評①
23	第2課題の合評と講評②
24	第2課題の合評と講評③
25	第2課題の合評と講評④
26	第3課題の合評と講評①
27	第3課題の合評と講評②
28	第3課題の合評と講評③
29	第3課題の合評と講評④
30	一年間の授業の振り返り

科目名	文章表現の基礎	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 通年	形態	演習		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
(前期)文芸学科 1 年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生活の基盤を築くことを目標とする。 (後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。	
授業概要	
(前期)7 クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要となるアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。 (後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席厳禁。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。 パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点(前期):授業への積極的な参加等	20
提出物(前期:最終レポート含む)	30
平常点(後期:授業への積極的な参加等)	20
提出物(後期)	15
最終課題(後期)	15

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名 1	スタディ スキルズ ナビゲーション 2023

出版社名		著者名	大阪芸術大学／ベネッセ・キャリア
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス(大学における学び): 自己紹介・他己紹介
2	ノートテイキング
3	メールや手紙の書き方・出し方
4	図書館の利用(見学、体験)
5	Word や PowerPoint の使い方
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)
7	情報リテラシーについて
8	人に伝わる文章を書く①
9	人に伝わる文章を書く②
10	レポートの書き方①テーマを見つける
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる
12	レポートの書き方③口頭発表を行う
13	レポートの書き方④口頭発表を行う
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)
15	本の紹介②と前期のまとめ
16	後期授業のガイダンス: 第1課題の説明・原稿用紙の使い方
17	第1課題の合評と講評①
18	第1課題の合評と講評②
19	第1課題の合評と講評③
20	第1課題の合評と講評④
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する

22	第2課題の合評と講評①
23	第2課題の合評と講評②
24	第2課題の合評と講評③
25	第2課題の合評と講評④
26	第3課題の合評と講評①
27	第3課題の合評と講評②
28	第3課題の合評と講評③
29	第3課題の合評と講評④
30	一年間の授業の振り返り

科目名	文章表現の基礎	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 通年	形態	演習		
教員名	福井 慎二				
クラス名					

授業目的と到達目標
(前期)文芸学科 1 年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生生活の基盤を築くことを目標とする。 (後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。
授業概要
(前期)7 クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要となるアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。 (後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席厳禁。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。 パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点(前期):授業への積極的な参加等	20
提出物(前期:最終レポート含む)	30
平常点(後期:授業への積極的な参加等)	20
提出物(後期)	15
最終課題(後期)	15

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名 1	スタディ スキルズ ナビゲーション 2023

出版社名		著者名	大阪芸術大学／ベネッセ・キャリア
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス(大学における学び): 自己紹介・他己紹介
2	ノートテイキング
3	メールや手紙の書き方・出し方
4	図書館の利用(見学、体験)
5	Word や PowerPoint の使い方
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)
7	情報リテラシーについて
8	人に伝わる文章を書く①
9	人に伝わる文章を書く②
10	レポートの書き方①テーマを見つける
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる
12	レポートの書き方③口頭発表を行う
13	レポートの書き方④口頭発表を行う
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)
15	本の紹介②と前期のまとめ
16	後期授業のガイダンス: 第1課題の説明・原稿用紙の使い方
17	第1課題の合評と講評①
18	第1課題の合評と講評②
19	第1課題の合評と講評③
20	第1課題の合評と講評④
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する

22	第2課題の合評と講評①
23	第2課題の合評と講評②
24	第2課題の合評と講評③
25	第2課題の合評と講評④
26	第3課題の合評と講評①
27	第3課題の合評と講評②
28	第3課題の合評と講評③
29	第3課題の合評と講評④
30	一年間の授業の振り返り

科目名	日本文学の歴史Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	講義		
教員名	藪 葉子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
『枕草子』『源氏物語』などの代表的な日本の古典文学に触れることを通して、その時代に生きた人々の心に触れ、古典文学に対する関心を深めるとともに、古典は現代の我々にとっても人生の糧となるものであることを認識する。	
授業概要	
対面授業 この授業では、特に多彩な作品が見られる平安時代の作品を中心に引き上げていく。『源氏物語』に関しては他の作品より時間をかけて扱い、文学史上における『源氏物語』前後との関係についても考えていきたい。「国宝源氏物語絵巻」などにも触れる。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
次回の講義テーマを予告するので、それに関する予習をすること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点(小レポートの提出など)	30
期末(筆記)試験	70

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業で扱う作品の概説。
2	『竹取物語』に見える話型について(1)
3	『竹取物語』に見える話型について(2)
4	『源氏物語』の『竹取物語』享受について。
5	『枕草子』の文体について(1)
6	『枕草子』の文体について(2)
7	『枕草子』の文体について(3)
8	『源氏物語』の文体について(1)
9	『源氏物語』の文体について(2)
10	『源氏物語』の文体について(3)
11	『源氏物語』の文体について(4)
12	国宝「源氏物語絵巻」について(1)
13	国宝「源氏物語絵巻」について(2)
14	女流日記文学について。
15	前期授業のまとめ。
16	現存する古典文学作品が抱える問題について。
17	『源氏物語』夕顔巻。 夕顔死去の前夜の場面を読む(1)
18	『源氏物語』夕顔巻。 夕顔死去の前夜の場面を読む(2)
19	『源氏物語』若紫巻。 北山の垣間見の場面を読む(1)
20	『源氏物語』若紫巻。 北山の垣間見の場面を読む(2)
21	『源氏物語』紅葉賀巻。

	藤壺の宮の皇子出産の場面を読む(1)
22	『源氏物語』紅葉賀巻。 藤壺の宮の皇子出産の場面を読む(2)
23	『源氏物語』葵巻。 車争いの場面を読む(1)
24	『源氏物語』葵巻。 車争いの場面を読む(2)
25	『源氏物語』賢木巻。 野々宮の別れの場面を読む(1)
26	『源氏物語』賢木巻。 野々宮の別れの場面を読む(2)
27	『源氏物語』須磨巻。 光源氏の須磨蟄居の場面を読む。
28	『源氏物語』薄雲巻。 明石の君の母子別れの場面を読む(1)
29	『源氏物語』薄雲巻。 明石の君の母子別れの場面を読む(2)
30	後期授業のまとめ。

科目名	日本文学の歴史Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	講義		
教員名	古江 尚美				
クラス名	中世文学				

授業目的と到達目標
政治の実権が貴族から武家に移った中世、文学の担い手も都の貴族から全国の武士、庶民へと広がっていきました。 その中で生まれた連歌や軍記物語、能・狂言など中世を代表する文学作品を読んで、中世という時代を感じ、当時生きた人々の感性に触れます。そうすることによって、現代の日本人や日本文化への理解も深まるでしょう。
授業概要
中世文学の概論だけでなく、可能な限り個々の作品に触れ、中世を実体験するべく、代表的作品を読んでいきます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
毎回、授業の最後に出席テストを実施します。 授業をただ聞くだけでなく、要点をまとめる問題に答えたり、自分で作品を読んだ感想を書いたりしてください。 翌週、採点したものを返却するので、できなかったところを再確認すること。 また、前期末と後期末に確認試験を実施します。暗記よりも理解重視なので、試験は全て(電子機器以外)持ち込み可です。資料など普段から整理し復習しておくことが重要です。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
確認テスト(前期・後期)	50
出席テスト	50

教科書			
教科書1	『日本文学史』古代・中世篇 4・5・6		
出版社名	中公文庫	著者名	ドナルド・キーン
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス、ドナルド・キーンについて
2	中世とは 時代背景
3	和歌 1 勅撰集 『新古今集』
4	和歌 2 本歌取り
5	和歌 3 歌合、定数歌
6	和歌 4 新古今集の歌人たち
7	連歌 1 連歌の形式
8	連歌 2 連歌の技巧 連歌式目
9	連歌 3 『水無瀬三吟』
10	日記 1 王朝女流日記
11	日記 2 紀行
12	随筆 1 『方丈記』
13	随筆 2 『徒然草』
14	随筆 3 まとめ
15	前期の総復習、前期確認テスト
16	前期小テスト返却。法語『歎異抄』
17	御伽草子 1 分類 公家物
18	御伽草子 2 僧侶物
19	御伽草子 3 武家物 庶民物
20	軍記物語 1 『保元物語』『平治物語』
21	軍記物語 2 『平家物語』
22	軍記物語 3 『承久記』
23	軍記物語 4 『太平記』
24	能 1 観阿弥
25	能 2 世阿弥

26	狂言
27	キリシタン文学 1 キリスト教伝来
28	キリシタン文学 2 『エソポのハブラス(イソップ物語)』をローマ字で読む
29	総まとめ 後期確認テスト
30	試験返却 解説 総復習

科目名	日本文学の歴史Ⅲ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	講義		
教員名	福井 慎二				
クラス名					

授業目的と到達目標
国語科教員免許取得を考慮し、有名文学作品を取り上げて国語科教員に必要な教養と基礎知識の習得を目指す。前期は文学概念の変遷と言文一致について理解することを目的とする。 後期は自然主義・私小説によって制度化された小説概念とその限界について理解することを目的とする。 文学史の知識の習得と有名文学作品の読破を目標とする。
授業概要
表現のあり方の歴史という観点から明治・大正文学史を取り上げ、その文学的問題点と、アニメ、映画を参照しながら個々の作品を見ていく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
有名作品を数多く読むことを目的とし、特記事項に従って各自で作品入手し授業計画に従って 予め読んでおくこと。『金色夜叉』『破戒』『心』『或る女』『暗夜行路』は長編(文庫本で各 280～550 ページ)で読むのに5～6日、『歌行燈』『蒲団』『春琴抄』『蟹工船』(各 70～130 ページ)は2～3日、それ以外(各 15～47 ページ)は数時間かかる。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
前期・後期のレポート	80
授業態度	20

教科書			
教科書1	必要箇所のみプリントを配布する 授業で取り上げる殆どの作品の著作権が消滅しているので、国立国会図書館の蔵書検索や「青空文庫」のホームページで無料で閲覧・ダウンロードできる。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
レポート作成には作品を必ず読む必要があり、「暗夜行路」以外は、著作権が切れたため「青空文庫」のホームページで無料でダウンロードして読めます。 あるいは図書館で借りたり、手持ちの本を使ってください。
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス／川端康成・武者小路実篤・志賀直哉・芥川龍之介・谷崎潤一郎・永井荷風の動画参照 成績評価基準・テキスト・授業目的・授業計画・レポートの書き方を確認し、近代・現代文学史の時期区分を説明する。谷崎・志賀・武者小路・川端・芥川の記録映像を見て近代文学に親しみを持ってもらう。
2	文学概念・小説概念の革命 その1／坪内逍遙『小説真髓』初版本 明治10年代の代表的ジャンルの毒婦物・政治小説を取り上げて新しいキャラクター作りと女性の社会進出を関連づける。19世紀の世界同時進行の文学概念の変化を英語・中国語・日本語で確認し、『小説神髓』の文学史的意義を明らかにする。
3	文学概念・小説概念の革命 その2／坪内逍遙『当世書生気質』・二葉亭四迷『浮雲』初版本 『小説神髓』の実践としての『当世書生気質』の問題点と、江戸時代の戯作の特徴を踏まえた上での『浮雲』の試み確かめる。『小説神髓』『当世書生気質』『浮雲』の初版本を紹介し、和装本から洋装本への変化・浮世絵風の挿絵を見て出版文化に触れる。
4	言文一致 明治33年の川上音二郎一座パリ公演の録音の自己紹介を聞き、話し言葉は現在と変わらず書き言葉は文法・語彙が異なることから言文一致の必要性を確認し、文学における言文一致の意味づけを行なう。
5	尾崎紅葉『金色夜叉』その1 映画参照・初版本 紅葉を中心とする硯友社の文学史的な位置づけをし、『金色夜叉』の粗筋を確認して貫一・お宮の恋愛観のすれ違い

	を考察する。
6	尾崎紅葉『金色夜叉』その2 映画参照 『金色夜叉』の初版本、メディアミックスぶりを紹介する。映画が小説の独特さを取り上げず通俗悲劇化していることに触れる。
7	森鷗外『舞姫』 映画参照 鷗外の文学史的立場づけをし、鷗外文学の重要モチーフを扱った『舞姫』の豊太郎の自意識の変化・自己欺瞞を考察する。
8	悲惨小説 広津柳浪『黒蜥蜴』 悲惨小説の特徴を確認し、その代表の『黒蜥蜴』を取り上げ悲劇の不可避性を見る。テキストは入手困難なのでプリントを配布する。
9	観念小説 泉鏡花『外科室』 映画参照 『外科室』を通じて鏡花の発想の独特さを確認し、鏡花文学の中で異質な観念小説としての『外科室』を位置づける。
10	泉鏡花『歌行燈』 映画参照 歌舞伎の手法を用いた『歌行燈』に取り込まれた能を見て伝統芸能に親しみ、近代以前の文学の遺産を継承した創作法に触れる。
11	樋口一葉『たけくらべ』 アニメ参照 アニメで粗筋を確認し、明治の立志少年とは異なり地縁・親の家業に縛られる子供像を見る。一葉の自筆原稿に基づく真筆本を見て推敲ぶりを確認する。
12	自然の発見 国木田独步『武蔵野』 志賀重昂『日本風景論』 自然描写が花鳥風月の美意識・日本三景式風景観に基づいた観念的・類型的表現から、写生や『日本風景論』の科学的風景観によって変化し、『武蔵野』の写実的で風景の個性を捉えた表現になったのを確認する。
13	自然主義の理論 その1 近代文学の枠組みを形成した自然主義理論の特徴をゾライズムと比較して明らかにし、事実重視のあまり虚構を否定して作者の実体験に基づき告白形式を採用したことを解説する。 【前期レポート提出日】
14	自然主義の理論 その2 自然主義理論の中核を占める平面描写・一元描写を視点の観点から捉える。
15	自然主義の理論 その3 芸術と実行論争を取り上げて自然主義の限界を確認する。 【前期レポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】
16	ガイダンス・前期レポート返却 UNIPAで返却した前期レポートの採点基準・解答例を公表して、後期の学習の動機づけをする。また後期の授業計画を解説する。
17	島崎藤村『破戒』 映画参照 粗筋と『破戒』の藤村の作品史上の位置づけの問題点を確認し、丑松の告白の自己欺瞞を探る。『破戒』初版本を見て個人著作集の統一デザインの始まりを確認する。
18	田山花袋『蒲団』 TVドラマ参照 『蒲団』に到る花袋文学の変貌を踏まえ、時雄の「恋の保護者」の内実と私小説の先駆性を確認する。
19	夏目漱石『こころ』その1 映画参照 漱石の文学史的立場づけをし教科書教材として一部分のみ掲載されることが多いので粗筋を確認し、先生と学生の

	関係を中心に考える。
20	夏目漱石『こころ』その2 映画とアニメの比較 『心』の初版本の漱石のデザインを紹介し、『心』の映画・アニメの解釈の違いに触れる。
21	歴史小説 森鷗外『山椒大夫』 映画参照 歴史小説が近代文学に突き付けた問題を文学・歴史概念の変化から明らかにし、説経節と比較しながら『山椒大夫』の歴史離れと歴史其儘の問題を確かめる。
22	谷崎潤一郎『春琴抄』その1 映画参照 『刺青』『痴人の愛』を通じて谷崎の抱えた問題を確認し、代表作『春琴抄』の独特の愛の形を語り手がサディズム・マゾヒズムで捉える独特さを見る。
23	谷崎潤一郎『春琴抄』その2 映画参照・初版本 『春琴抄』の初版本のデザインを見る。映画のアレンジぶりに触れる。
24	白樺派 有島武郎『或る女』 初版本 大正文学の枠組みを作った白樺派の特徴を確認し、『或る女』のファム・ファタールぶりと葉子の自己矛盾を見る。 『或る女』初版本のアンカットの造本に触れる。
25	志賀直哉『暗夜行路』その1 映画参照 『暗夜行路』の粗筋を確認し、謙作の価値判断の矛盾と作者の相対化を見る。
26	志賀直哉『暗夜行路』その2 映画参照 『暗夜行路』の映画の特色に触れる。
27	新感覚派・大正私小説 新感覚派の表現の特徴と私小説の特質を確認する。
28	プロレタリア文学の歴史と理論 プロレタリア文学の歴史を概観し、その理論と課題を確認する。
29	小林多喜二『蟹工船』 映画参照 『蟹工船』が表現・語りの点でプロレタリア・リアリズムに反しているのを見る。『蟹工船』初版本の伏せ字から検閲ぶりを見る。
30	芥川龍之介『地獄変』 映画参照 芥川が大正文学をどのように代表するか確認した上で『地獄変』の芸術至上主義を見る。 【後期レポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】

科目名	文芸の基礎 I	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	○龍本 那津子、出口 逸平、福井 慎二				
クラス名					

授業目的と到達目標
文学は楽しい。その世界をよりよく味わい、参入するための基礎知識を学びます。古代から現代にわたって日本文学の諸問題に関する知見を深め、また聖書以降の西洋文学の流れを辿りつつ西洋文学の基礎を学びます。ただし、文芸学科の学生として、たんに文学あるいは文学史の知識を得るためだけの授業ではありません。古典といわれる作品を読むことが創作のためには必須です。"読む・読む・書く・書く、が合言葉。
授業概要
対面授業 複数の担当者がそれぞれの専門分野を中心として授業を進めます。前期は日本文学を中心とし、後期は世界文学を中心とします。授業ではさまざまな文学作品にふれ、作者や時代、その作品が生まれた背景などについて学びます。また、授業内容に基づく課題作成があります。(提出必須・平常点算出の基礎)。詳細は各担当者より指示があります。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
課題は必ず提出すること。 本屋さんに行こう！

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題	90
授業への積極的な参加	10

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	小説・映画・演劇の関連をさぐる①(出口)
2	小説・映画・演劇の関連をさぐる②(出口)
3	小説・映画・演劇の関連をさぐる③(出口)
4	小説・映画・演劇の関連をさぐる④(出口)
5	小説・映画・演劇の関連をさぐる⑤(出口)
6	太宰治の前衛文学と私小説 その1 太宰の伝記と『葉』の前衛性(福井)
7	太宰治の前衛文学と私小説 その2 私小説の思想と構造①(福井)
8	太宰治の前衛文学と私小説 その3 私小説の思想と構造②(福井)
9	太宰治の前衛文学と私小説 その4 『道化の華』のメタフィクション(福井)
10	太宰治の前衛文学と私小説 その5 『猿面冠者』の入れ子構造(福井)
11	伝承と文学① 昔話と物語の構造(龍本)
12	伝承と文学② 昔話の中の動物(龍本)
13	伝承と文学③ 二人妻の伝承(龍本)
14	伝承と文学④ 入水する乙女(龍本)
15	伝承と文学⑤ さすらう若君(龍本)

科目名	文芸の基礎Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	小川 光生、笹谷 純雄、○団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
文学は楽しい。その世界をよりよく味わい、参入するための基礎知識を学びます。古代から現代にわたって日本文学の諸問題に関する知見を深め、また聖書以降の西洋文学の流れを辿りつつ西洋文学の基礎を学びます。ただし、文芸学科の学生として、たんに文学あるいは文学史の知識を得るためだけの授業ではありません。古典といわれる作品を読むことが創作のためには必須です。“読む・読む・書く・書く、”が合言葉。
授業概要
複数の担当者がそれぞれの専門分野を中心として授業を進めます。前期は日本文学を中心とし、後期は世界文学を中心とします。授業ではさまざまな文学作品にふれ、作者や時代、その作品が生まれた背景などについて学びます。また、授業内容に基づく課題作成があります。(提出必須・平常点算出の基礎)。詳細は各担当者より指示があります。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
課題は必ず提出すること。 本屋さんに行こう！

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題	90
授業への積極的な参加	10

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	シェイクスピアと笑い① 『じゃじゃ馬ならし』を取り上げ、当時の文化的な解説とあらすじを説明し、喜劇としての構造を探る。(団野) 【対面授業】(団野の第1回から第5回まで)
2	シェイクスピアと笑い② 『から騒ぎ』を取り上げ、当時の文化的な解説とあらすじを説明し、喜劇としての構造を探る。(団野) 【対面授業】
3	シェイクスピアと笑い③ 『夏の夜の夢』を取り上げ、当時の文化的な解説とあらすじを説明し、喜劇としての構造を探る。(団野) 【対面授業】
4	シェイクスピアと笑い④ 『お気に召すまま』を取り上げ、当時の文化的な解説とあらすじを説明し、喜劇としての構造を探る。(団野) 【対面授業】
5	シェイクスピアと笑い⑤ 『十二夜』を取り上げ、当時の文化的な解説とあらすじを説明し、喜劇としての構造を探る。(団野) 【対面授業】
6	西洋古典を読む①『旧約聖書』……創世記を中心に(小川) 【対面授業】
7	西洋古典を読む②『新約聖書』……福音書とヨハネの黙示録を中心に(小川) 【対面授業】
8	西洋古典を読む③ダンテ『神曲：地獄篇』(小川) 【対面授業】
9	西洋古典を読む④ボッカッチョ『デカメロン』(小川) 【対面授業】
10	西洋古典を読む⑤マキャヴェリ 『君主論』(小川) 【対面授業】

[illegible]

科目名	漢文学	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	講義		
教員名	奈良 行博				
クラス名					

授業目的と到達目標	
中国の古代漢字で書かれた文章について、その読解力を養い、その思想や文学がもつ味わいの深さを知る。初めて学ぶ学生には文法の基礎を、学習経験のある学生にはより深い味わいの目が養えるようにしたい。	
授業概要	
【対面授業】 受講学生が多いので個人的なレッスンは行えないが、基礎文法をおさらいしながら、漢文表現の簡潔さと内容の深遠さを味わえるように講読と解説を加える。漢字の意味や作品の歴史的背景など、面白みの発掘の仕方を語っていききたい。講義の中に適宜、中国の歴史や文化を紹介するビデオ鑑賞の時間を組み入れる。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
単に丸暗記するのではなく、自分で文章読解を試みて、漢字の配列法則を分析しようとする事。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
学期末に行う理解度確認筆記試験	60
授業内レポート	30
宿題提出	10

教科書			
教科書1	プリントを使用		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	講義の中で紹介する		
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
中国の民族宗教である「道教」の研究を続けて 30 数年。現地の民俗、生活文化に親しみ、馴染んだ経験。博士論文執筆のために読み込んだ文献の多様性。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス(受講心得など)
2	漢文の文法① 返り点の意味
3	漢文の文法② 主語と述語
4	漢文の文法③ 修飾語と被修飾語
5	漢文の文法④ 動詞と目的語
6	漢文の文法⑤ 打消しの形
7	漢文の名言名句を学びながら文法の力を確かめる①。 漢字の成り立ち。
8	漢文の名言名句を学びながら文法の力を確かめる②。 漢字の偏と旁。
9	漢文の名言名句を学びながら文法の力を確かめる③。 漢字の歴史①
10	漢文の名言名句を学びながら文法の力を確かめる④。 漢字の歴史②
11	漢文の名言名句を学びながら文法の力を確かめる⑤。 漢字の書体
12	漢詩から音の美しさを知る。 漢字の音韻。
13	漢詩から句のリズムを味わう。 漢字を作る。
14	漢文の故事を味わう。
15	前期講義の振り返りとまとめ。理解度確認の筆記試験。後期講義の概要説明と授業アンケート。
16	前期内容のおさらいと確認。前期末に行った確認試験の結果について解説と講評。
17	故事から思想を学ぶ① 『韓非子』の文
18	故事から思想を学ぶ② 『戦国策』の文
19	故事から思想を学ぶ③ 『孟子』の文
20	故事から思想を学ぶ④ 『列子』の文
21	故事から思想を学ぶ⑤ 『淮南子』の文
22	『論語』の味わい① 孔子の人と思想

23	『論語』の味わい② 孔子と彼の弟子達
24	『論語』の味わい③ 名場面を味わう
25	『老子』の味わいと「道」
26	『老子』と『莊子』
27	『莊子』の文学性
28	『荀子』と礼の思想
29	漢詩にみえる中国思想
30	後期講義の内容を振り返り、全体をまとめる。理解度確認の筆記試験。

科目名	書道演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 通年	形態	演習		
教員名	小林 逸光				
クラス名					

授業目的と到達目標	
中国・日本の書の名品を通して、楷書・行書・草書・かなの技法を学び、その歴史と芸術的表現を学ぶ。特に各体の重要な古典作品を学び技術の習得を図る。さらに文部科学省による中学校指導要領の目的に沿い、書写の実技練習を学び、中学校教員免許(国語)に役立てる。	
授業概要	
楷書・行書・草書・かなを学習し、各書体の技法の取得を図る。また各書作品の作者や作品の歴史的意義と後世への影響を学習する。それらを理解した上で中学書写の書き方及び指導方法を理解する。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
実習を中心とする科目であるため、書道用具は必ず忘れないようにする。実習科目であるため受講に際して真摯に実習することが求められる。また書の学習は日頃より各自で練習することが大切である。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業への積極的な参加	30
毎時授業への提出物	70

教科書			
教科書1	必要に応じて授業時に資料を配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	「中学書写一・二・三年」		
出版社名	光村図書出版	著者名	
参考書名2	「書Ⅰ(高校)」		
出版社名	光村図書出版	著者名	

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
薬師寺東京別院書道講師

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	文房四宝(筆・紙)について：日常の書1
2	文房四宝(墨・硯)について：日常の書2
3	文字の歴史・ひらがな・カタカナ・教科書体を学ぶ
4	楷書とかなを学ぶ（硬筆）
5	楷書を学ぶ1（用筆の基本）
6	楷書を学ぶ2（欧陽詢の楷書）
7	楷書を学ぶ3（虞世南の楷書）
8	楷書を学ぶ4（褚遂良の楷書）
9	楷書を学ぶ5（顔真卿の楷書）
10	楷書を学ぶ6（北魏の楷書1「張猛龍碑」）
11	楷書を学ぶ7（北魏の楷書2「鄭道昭の楷書」）
12	楷書を学ぶ8（写経の書）
13	楷書を学ぶ9（王羲之の楷書）
14	行書を学ぶ1（用筆の基本）
15	行書を学ぶ2（王羲之の行書1）
16	行書を学ぶ3（王羲之の行書2）
17	行書を学ぶ4（米元章の行書）
18	行書を学ぶ5（趙孟頫の行書）
19	行書とかなを学ぶ（硬筆）
20	季節の言葉と書式を学ぶ（硬筆）
21	日本の書を学ぶ1（空海の書）
22	日本の書を学ぶ2（嵯峨天皇の書）
23	日本の書を学ぶ3（橘逸勢の書）
24	日本の書を学ぶ4（小野道風の書）

25	かなを学ぶ（かなの基本）
26	草書を学ぶ1（王羲之の草書）
27	草書を学ぶ2（孫過庭の草書）
28	漢字かなまじりの書を学ぶ
29	楷書の作品創作
30	行書・草書の作品創作

科目名	国語科指導法Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	講義		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
授業目的: 中等教育における国語科授業を担当するために必要な基礎的知識、技能を身に付け、学習指導計画を立て模擬授業を行う力を育成する。 到達目標: 中学校および高等学校学習指導要領に基づき、国語教育の現状と課題、目標や内容等を理解し、学習指導計画を立てるための基礎的知識が身についている。学習指導計画を立て、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。	
授業概要	
対面授業 前期は、中学校および高等学校の国語教育の意義と役割を理解するとともに、〔思考力・判断力・表現力等〕(「話す・聞く」「書く」「読む」と「知識及び技能」)の指導法に関して、基本的な事項を学ぶ。また、発問や板書、教材・教具の取扱いなどの授業実践に必要な事項を学ぶ。後期は、特に「読むこと」の学習に焦点を当てて学習指導案の作成や模擬授業を行い、授業を行う際の留意点や、生徒の実態把握を行う観点、授業デザインの手法等を学ぶ。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
・毎回国語の基礎知識に関する小テストを行うので、予習が必要である。 ・発表やグループワーク、討論などを行うので、積極的に取り組んで欲しい。 ・その他、授業中に指示する課題を確実に提出すること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業に取り組む姿勢	30
模擬授業・課題の内容	50
レポート	20

教科書			
教科書1	実践国語科教育法-第3版:「楽しく、力のつく」授業の創造		
出版社名	学文社	著者名	町田守弘(編集)
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	「中学校学習指導要領」		
出版社名	東山書房	著者名	

参考書名2	「高等学校学習指導要領」		
出版社名	東山書房	著者名	
参考書名3	「中学校学習指導要領解説 国語編」		
出版社名	「中学校学習指導要領解説 国語編」	著者名	
参考書名4	「高等学校学習指導要領解説 国語編」		
出版社名	教育出版	著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
[文部科学省, http://www.mext.go.jp/]
特記事項
教員実務経験
指導者の実務経験: 高等学校国語科教諭

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに: 国語科指導法 I で何を学ぶか
2	国語科の制度—学習指導要領と教科書
3	授業構成の要素① 発問と指示
4	授業構成の要素② 板書・ノート指導・ワークシート
5	「話すこと・聞くこと」の授業
6	「書くこと」の授業
7	「読むこと」の授業①文学的な文章
8	「読むこと」の授業②説明的な文章
9	詩歌の授業
10	古典の授業(「我が国の言語文化に関する事項」)
11	漢字・語彙の指導
12	グループ学習をどう生かすか
13	国語科における評価について学ぶ
14	指導計画・学習指導案の作成について学ぶ①
15	指導計画・学習指導案の作成について学ぶ②
16	実践模擬授業の教材分析
17	実践模擬授業の指導計画を立てる
18	実践模擬授業の学習指導案作成(全体案と評価規準)
19	実践模擬授業の学習指導案作成(本時案)
20	実践模擬授業と振り返り①(受講生A)
21	実践模擬授業と振り返り②(受講生B)
22	実践模擬授業と振り返り③(受講生C)

23	実践模擬授業と振り返り④(受講生D)
24	実践模擬授業と振り返り⑤(受講生E)
25	実践模擬授業と振り返り⑥(受講生F)
26	実践模擬授業の総括
27	指導と評価の一体化を目指すために
28	授業における ICT 活用の基礎
29	国語教育とメディア・リテラシー
30	まとめ 国語教育の課題と展望

科目名	国語科指導法Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
授業目的:「国語科指導法Ⅰ」で身につけた国語教師としての基礎力をさらに充実させ、国語科指導の実践力を養う。 到達目標:様々な教材について教材研究の方法を身につけ、授業計画を立てることができる。一つの教材について多様な指導法を考えることができる。	
授業概要	
対面授業 本授業においては、主に中学校の教科書を用いて〔思考力・判断力・表現力等(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと)〕、〔知識及び技能〕(「我が国の言語文化に関する事項」)に関する授業法を考え、理解を深める。さらに、現在の教育の動向を知り、新しい時代に対応した指導法(アクティブ・ラーニングを取り入れた授業・ICTを活用した授業など)について学ぶ。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
・毎回授業の初めに小発表を行う。課題は授業で指示する。 ・発表やグループワーク、討論などを行うので、積極的に取り組んで欲しい。 ・その他、授業中に指示する課題を確実に提出すること	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業に取り組む姿勢	30
模擬演習・課題の内容	50
レポート	20

教科書			
教科書1	実践国語科教育法-第3版:「楽しく、力のつく」授業の創造		
出版社名	学文社	著者名	町田守弘(編集)
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	「中学校学習指導要領解説 国語編」		
出版社名	東洋館出版	著者名	
参考書名2	「高等学校学習指導要領解説 国語編」		
出版社名	教育出版	著者名	

科目名	国語科指導法Ⅲ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	龍本 那津子				
クラス名	選択科目				

授業目的と到達目標	
授業目的: 模擬授業を多く経験することで、国語科指導の実践力を高める。さらに新しい時代に対応した国語教育のあり方について考え、授業実践に生かす。 到達目標: 様々な教材について授業計画を立て、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。様々な教材・指導法に関する知見を深めている。	
授業概要	
対面授業 本授業においては、主に中学校の教科書を用いて〔思考力・判断力・表現力等〕(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」)および〔知識及び技能〕のうち「我が国の言語文化に関する事項」に関する模擬授業を多く行う。ディスカッションを通して相互に問題点を発見し、よりよい授業法を考える。さらに、新しい時代に対応した指導法(アクティブ・ラーニングを取り入れた授業・ICT を活用した授業など)を取り入れた授業構成を考える。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
・毎回授業の初めに小発表を行う。課題は授業で指示する。 ・発表やグループワーク、討論などを行うので、積極的に取り組んで欲しい。 ・その他、授業中に指示する課題を確実に提出すること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業に取り組む姿勢	30
模擬授業・課題の内容	50
レポート	20

教科書			
教科書1	実践国語科教育法-第3版:「楽しく、力のつく」授業の創造		
出版社名	学文社	著者名	町田守弘(編集)
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	「中学校学習指導要領」		
出版社名	東山書房	著者名	

参考書名2	「高等学校学習指導要領」		
出版社名	東山書房	著者名	
参考書名3	「中学校学習指導要領解説 国語編」		
出版社名	「中学校学習指導要領解説 国語編」	著者名	
参考書名4	「高等学校学習指導要領解説 国語編」		
出版社名	教育出版	著者名	
参考書名5	中学校・高等学校国語科教育法研究		
出版社名	東洋館出版	著者名	田近洵一，鳴島甫編著；塚田泰彦 [ほか]

参考 URL
[文部科学省, https://www.mext.go.jp/index.htm]
特記事項
前年度に「国語科指導法Ⅰ」を履修している者を対象とする科目である。
教員実務経験
指導者の実務経験: 高等学校国語科教諭

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに: 国語科指導法Ⅲで何を学ぶか
2	実践模擬授業の教材の選定
3	実践模擬授業のための教材研究
4	実践模擬授業の指導計画を立てる
5	実践模擬授業の学習指導案作成(全体案と評価規準)
6	実践模擬授業の学習指導案作成(本時案)
7	学生(A)による実践模擬授業(第1回目)とディスカッション
8	学生(B)による実践模擬授業(第1回目)実践模擬授業とディスカッション
9	学生(C)による実践模擬授業(第1回目)実践模擬授業とディスカッション
10	学生(D)による実践模擬授業(第1回目)実践模擬授業とディスカッション
11	学生(A)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション
12	学生(B)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション
13	学生(C)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション
14	学生(D)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション 実践模擬授業の総括
15	おわりに: よりよい授業を作るために